

梅鶯仏教壮年

第22号
2005年
5月8日

次回例会

期日：5月22日（日）

夜7時～8時半

プログラム

お勤め・法話

話し合い

仏教讃歌練習へ四弘誓願へ

◎話し合いテーマ

「正信偈を味わう①」

\$

本年度第1回目の例会です。

本年度から正信偈を共に味わっていき
たいと思います。

正信偈の概要と、最も大切な最初の二
句「帰命無量寿如来 南無不可思議光」
について、すでに例会でお話したいし
ました（会報8・9号を読み返して下さ
い）ので、今回はつぎの「法蔵菩薩因位
時」重誓名聲聞十方」（法蔵菩薩物語）
を味わいたいと思います。また、仏教讃

歌の練習は、前回練習した「敬礼文
に「三帰依」のおさらいと、新た
に「四弘誓願」を練習します。
着きも取り戻して大変に良い季節で
す。皆さん是非ご参加下さい。

\$

お花だったら 金子みすゞ

もしも私がお花なら、
とてもいい子になれるだろ。

ものが言えなきや、あるけなきや、
なんでおいたをするものか。

だけど、誰かがやってきて、
いやな花だといったなら、
すぐに怒ってしぼむだろ。

もしもお花になったって、
やっぱいい子になれまいな、
お花のようににはなれまいな。

阿弥陀さまは、いい子であることを救
いの条件にしているのではなく、罪をつ
くつてやまないこの私のままでを目当て
として下さっているのです。
「いい子」になれないと嘆くみすゞさ
んには、「そんな子が大切なんだよ」と
語りかける阿弥陀さまの声が聞こえて
たのでしよう。

△ことば▽

「懺悔（ざんげ）」という言葉は良
くご存じだと思います。

懺悔は「恥ずかしい」という意味
で、懺悔とは「恥ずかしく思い、悔
い改め、神仏に許しを請う」と
いった意味です。

もともとは仏教用語なのですが、
現在ではどちらかというと、キリス
ト教などの一神教におけるコン
フエッション
（confession）の訳語と
して使われています。

同じような言葉で親鸞聖人がよく
使われている言葉に「懺愧（ざん
ぎ）」という言葉があります。

懺愧は「自らに省みて恥ずかし
い」と、愧は「他人に対して恥ずかし
い」という意味で、懺愧は「ただた
だ恥ずかしい私」を意味するのみ
で、悔いることも、神仏に許しを請
うこともできない私の姿を現してい
ますが、同時にそんな私であるから
こそ弥陀弘誓の本願があるとの告白
でもあります。

「懺悔」が自ら悔いる世界であるな
らば、「懺愧」は悔いることの出来
ない私をすでに許して下さっている
南無阿弥陀仏の世界であり、同じよ
うな言葉でもその意味の奥深さは全
く異なるものです。
（「懺愧」は裏面の法話で使って
います）

題材法話

○植木等のエピソード

かつての人気者「ハナ肇」とクレージーキャッツ」。そのメンバーの一人植木等は、実は三重県の浄土真宗のお寺の出身であり、彼の昔のエピソードにこんなことがあったそうです。

それは、一番最初に大ヒットした「スーダラ節」に因んでのことなのですが、植木等のお父さんは、なかなかの厳格なご住職だったそうで、もともと自分の子供が芸能界に身を置くこと自体、あまり好ましく思っていないませんでした。

その上、あの「スーダラ節」を歌うこととなつて、植木等は歌詞を見て相当悩んだそうであります。

○分かつちやいるけど……

そこで叱られることを覚悟で、「今度、歌をうたうことになったのですが、歌詞に少



々問題がありまして」とい
 った感じで、お父さんに伺
 いを立てたそうです。
 とにかく一度歌って見る
 こととなり、覚悟を決め、
 「ちよいといっぱいのつも
 りで飲んでいつのまにやら
 はしご酒・・」と歌った
 そうです。
 そうしたところ、「分か
 っちゃいるけどやめられな
 い」という歌詞まで来たと
 ころで、突然「ちよつとま
 て」と止められたのだそう
 です。
 てつきり叱られると思っ
 たところ、当のお父さん、
 『すばらしい』とうなずい
 て、
 『この歌は、親鸞様の教え
 そのものだ』
 『親鸞様は、分かっちゃい
 るけどやめられないこの私
 たちを見抜き、お念仏のみ
 教えを明らかにしてくださ
 っておるんだ』と云われ、
 案に相違して、こ
 の歌をうたうこと
 に、賛成してくだ
 さったそうであり
 ます。



○阿弥陀様のころ

愚かしいことばかりの私の私であり、少しでも恥ずかしい日暮らしをと思ふのですが、なかなか「分かっちゃいるけどやめられない」のですね。

けれども阿弥陀さまは、やめられないこの私に対して、けっして「やめよ」と仰ってるわけではないのです。「やめなければ救わない」とも仰っておられないのです。

むしろやめられないこの私であるからこそ、やめられないこの私が「そのまんま」で救われていくことのできる世界を仕立て上げてくださり、「まかせよ、たのめよ」と、呼び続けておって下さるんです。

すべてを任せきることのできる世界、これは本当に有り難い世界なのであります。



〇
「報恩」の生活
「懺愧」の生活

ところ、この私たち
 はどこまでも横着なもん
 で、すから、つい「いや
 められないのが凡夫だか
 ら」などと、自分の行動
 の言い分けに使ってしま
 うことがありませんか。
 これは横着者のはき違
 えで、歎異抄の中でも、
 「本願ほこり」として厳
 しく戒められています。
 地獄へ落ちてもなんら
 不思議でないこの私を、
 無条件に救わんと誓って
 おって下さる阿弥陀さま
 の存在に氣付くとき、そ
 こには「恥ずべし、有り
 難し、申し訳なし」とい
 う「懺愧」と「報恩」の
 心が湧き出てくるはずで
 す。

「分かつちやいるけど
 やめられない」その中に
 も、少しでも恥ずかしく
 ない生き方をさせていた
 だこうという覚悟が出て
 くるはずであり、それが
 念仏者の生活態度であろ
 うと思います。

住職法話より

